

# 本を選ぶ

NO.463 2023年(令和5年)12月20日

●発行／ライブラリー・アド・サービス

<http://www.las2005.com>

本社 〒114-0002 東京都北区王子 4-23-4 TEL=03-6908-4643

●<ろん・ぼわん>ジュニパーベリー 続

●選書の法則：S. R. ランガナタンからの187のメッセージ (25)



●●●●●ろん・ぼわん●●●●●

## ジュニパーベリー 続

毎年玄関ドアを飾るクリスマス・リースは、毎年と同じく針葉樹を主体とする構成。花材を並べると、ヒバ、ヒムロスギ、ブルーアイス、ユーカリポポラス、ユーカリの実、薔薇の実、ヤシャブシ、ビバーナムティナス、それに今年は青黒い実のジュニパーベリーが加わった。針葉樹のすがすがしい香りが漂う。

そんな折、知人から山椒の精油を恵送いただいた。兵庫県養父市の産。当方が鼻と喉のトラブルを抱えているとご存知のはずもなく偶然ではあるが、リラックス効果があるという。喉がすっきりしていいかもしれない。

ホームページ (<https://asakurasansho.net/history/>) によると“《朝倉山椒》は400年以上の歴史を持つ由緒ある名産品です。その昔、天下統一を果たした豊臣秀吉の命により、生野鉾山奉行が山椒を植樹。その後、大きく育った木から収穫した実を薬として、秀吉の次に天下を治める徳川家康に献上したことがきっかけとなり、朝倉集落で栽培される山椒はく天下人が好む高級贈答品>として珍重されるようになったとか。“果房や粒が共に大きく、香り高い高貴な食材「朝倉山椒」は、現在も但馬地方で栽培が受け継がれ、多くの人々

に愛される特産品となっています”とある。実と木をつなぐ「軸」部分には実以上の香味成分が凝縮されているのだが、従来は実を収穫した後の1次加工(ブランチング)で取り除かれ、廃棄されていたらしい。

柚子や抹茶と並んで山椒の実は、ヨーロッパでスパイスとしてチョコレートとの和のフレーバーに採用されるまでになった。

ところで当方の鼻と喉はと言えば、次第に咳が強まり、鼻血も少しだがとまらない。熱はないし、感染症ではなさそうだ。ローズマリーなどの精油を含むバームなども嗅いで喉を癒すのだが、しかし今回は朝晩の咳が一向に治まらない。アレルギーだろうか。長引く咳で脇腹も痛くなり、やむなく耳鼻科を受診した。

若いドクターは、マスクはそのまま鼻だけみせてください、ああ確かに腫れてますね、ここを「キーゼルパツハ部位」といいます。血管が密集していて出血しやすいところでして、でももう治りかけています、けっしてこすらないようにしてくださいね、お薬を塗ったパッチを当てておきますから、うっとおしいとは思いますが最低でも24時間がんばって取らずにいてください、はいこれでお終いです。やれやれ。

10年ほど前になるが、紀州有田川の「ぶどう山椒」を山ほど取り寄せた。軸や枝を取り除き実だけにして、それを塩茹でてアクを抜いてから保存瓶に詰める作業は夜なべとなり案外大変だったが、しばらくの間その見事な青実山椒を楽しんだ。(埜村 太郎)

# 選書の法則：

## S. R. ランガナタンからの187のメッセージ (25)

吉植 庄栄

### 25. 第五法則と選書・中

『図書館選書論第2版』の内容を、ランガナタンがよく使った架空の対談方式で紹介している。今回は第五法則の2回目。成長する選書って何だろう？

#### 【登場人物】

○ランガナタン：図書館界のビッグスター、S. R. ランガナタン (1892-1972) 先生。インドのライブラリアンによると来年はランガナタン先生がライブラリアンになって100周年祭とのこと。各地で様々なイベントがインドであるようだ。筆者さんは行きたいらしい。

○第五法則くん：ランガナタンの著作『図書館学の五法則』に出てくる「図書館は成長する有機体 (A Library is a growing organism)」という5番目の法則。5つの法則の中で1、2を争う夢と希望にあふれた人気者！

#### ○人気者の第五法則くんと選書

ランガナタン (以下「ラ」)：今回は、第五法則くんの紹介だった。第五法則くんはとても有名でファンも多いけど、名前先行で実は詳しいことを皆が知らないということを紹介した。

第五法則くん (以下「五」)：先生、今回は私を詳しく紹介して下さいありがとうございます。全国に私のことを真に知る皆さんが少しでも増えたのではないかと思います。これからは事あるごとに、本当の自分を紹介していきたいと思えます。

ラ：うむ。頑張って行こうな。さて、それでいよいよ本題だ。第五法則くんと選書について、今回は話して行こう。

五：はい、よろしく願いいたします。

#### ○図書館って収容スペースに限界があるよね

ラ：さて、具体的な選書論というよりも、まず図書館の収容量の問題について考えよう。一見関係無さそうだが、選書と第五法則くんに関わる重要な問題なのだ。

五：はい、つまりずっと選書が続けて行くと、図書館の収容量一杯になって入らなくなるということですね。

ラ：そうだ。特に厳しいのが、毎年大量に刊行される雑誌や新聞といった逐次刊行物だな。図書館の位置づけにもよるが、もし受け入れたものを保

存していく図書館であると、これらを多く契約していればいるほど1年で大量に書庫の空きスペースを消費してしまう。

五：そうですね、特に新聞を原紙のまま保存すると、資料としては大きいのでスペースは本を所蔵する以上に消費されてしまいます。

ラ：そうだな。別の問題ではあるが、新聞は紙質が劣化しやすい分、保存も丁重に行わねばならない。製本するなら長持ちするようにしっかり作成しないとイケないな。

五：はい、もしケアを怠るとすぐに赤茶色に変色していった最終的には触ると崩れるように脆くなります。

ラ：そうだ。脆いよな。そこで考えられる方向は2つある。1つは、保存書庫を別に建造すること。もう1つは保存向きの媒体を選んで受入していくことだ。実は資料も進化するという観点で考えて行こう。

五：はい、ではそれぞれ解説をお願いします。

#### ○物理的に保存できるスペースを成長させよう

ラ：それでは最初に保存書庫を建てる件だ。保存機能が重要である一定以上大きな図書館は、大体その街の中心部にあることが多い。(典型的なのは岩手県立図書館。例外なのは宮城県図書館)

五：そうですね。歴史的に見ても車社会になる前からある大きな図書館って基本、大きな駅の近くやその街の中央部に配置されていますよね。

ラ：そうだな。徒歩や自転車等で人間が移動していたことを基準に、図書館の立地を考えていた時代の産物だ。で、そういった中心部にある図書館が、増えた資料を入れるスペースが少なくなった時、街の中央部で増築するための大きな空間を得ることは至難の業だ。

五：はい、都心部に改めて増築したり書庫を建てたりすることは、ちょっと難しいですよ。もしできたとしても、莫大な土地代と建設費用がかか

ります。大体狭い土地しか無いので、高層建築にせざるを得ません。

ラ：うむ。図書館を物理的に成長させようとしても、都心部にある図書館は、大きな制約があるのだ。

五：その問題を図書館員さんたちは、どのようにクリアして来たのでしょうか？

ラ：そこでだ、郊外の地代が安く広大なスペースを確保できる場所に、保存書庫を建てるのだよ。

五：なるほど、つまり立地が良いけど物理的な成長をしづらい大規模図書館は、条件が厳しくない郊外に収容スペースを大きく確保すれば良いのですね。

ラ：そうだな。前回触れた学校図書館の例にちょっと近い。蔵書が増えても部屋を拡大できないので、大きさが決まっているコンビニエンスストアと似た運営をしないといけないという話になったよな。常に利用者に読まれるものを精選してその図書館に配置する。

五：はい、そして利用頻度が少ない資料や希少性が高いものを中心にその郊外の保存書庫に移管する、ということですよな。

ラ：その通りだ。このようにすれば、膨大に増えた資料もコストを下げ保存することができる。

五：そうして、中央の図書館と郊外の書庫との組織的な連携が生まれますよね。これは前回取り上げた、先生のおっしゃる「成長する組織体」という概念にもつながる訳ですよな。

ラ：その通りだ。そうやって図書館の協力体制が成長していくのだ。

五：ちなみに筆者さんは、地元の図書館の大リニューアルが、収容量向上をあまり実現できないと聞いたので、このアイデアを提案したそうです。(注：地元の図書館は50年以上前の建物。収容量20万冊規模に対して現在は35万冊の蔵書・・・ってどんなことやって入れているの？という状態。これを抜本的に解消するリニューアルと思いきや・・・そうでもなかったということで少々の驚きと大きな不安。)

ラ：ほほう、どんな案だったのだ？

五：まず統廃合になって空いている市立学校のど

こかをその保存書庫に充てます。そこに書架を設置して利用頻度の低い資料を集めます。

ラ：うむ。まあ私がこれまで説明した案に近いよな。

五：その通りなのです。そして次に、移動図書館車の基地をそこに引っ越します。移動図書館車は市内全域に出動するわけで、現在の市立図書館に基地を置くことに拘る理由はあまりありません。この移動図書館車関係スペースが地元の図書館からあけば、それだけ利用者スペースや開架書架への転用に充てることができます。

ラ：うむ。まあそれもよく分かる。

五：更にここに市立学校の学校図書館の拠点も置きます。市内各学校の図書館関係の物品や資料の集積所にするほか、学校司書さんの合同作業や研修の場にもします。

ラ：なるほど。良いのではないかと学校図書館の整備も遅れ気味らしいので、一挙両得ではないかと、どうなったのだ？

五：残念ながら・・・却下です(涙)。

ラ：えええええ？中の方は収容量一杯・・・というか倍近く溢れている蔵書をどうするのだろうか？

五：正直・・・謎です(汗)。例えリニューアルオープン後、少々時間は時間稼ぎができるかもしれませんが、10年単位で・・・どうするのでしょうか？

## ○資料の進化で解消しよう

ラ：まあ気を取り直して次の視点は「資料の進化」じゃな。第五法則くんに対して、皆は図書館が変容していくイメージを持っているが、その中には図書館の資料の進化と成長も含まれているのだよ。

五：はい、そうですね。

ラ：まずは先にも話題になった新聞だ。今は大分廃れてしまったが、保存に向かない新聞を撮影して、マイクロフィルムというものに焼き付ける。そうすると大きい寸法の新聞が小さなリールに収録される。で、この小さなリールには1か月分といった大量の情報量が蓄積されるのだ。

五：開くと机一面に広がっていた新聞紙の情報を、大量に情報を縮約できてコンパクトな媒体にメ

ディア転換してしまうのですよね。

ラ：そうだ。そしてマイクロフィルムの耐久性は新聞紙に比べると格段に上がるので、保存機能を満たすのにも大変効果的だ。

五：読むときにはマイクロフィルムリーダーという機械で光を当てて表示させるのですよね。最近は見なくなりましたよね。

ラ：そうだ。これらは20世紀の技術で、現在は電子化されたデータベースに継承されている。

五：はい、電子化された結果、全文検索もできることになり更に容易に記事を探しやすくなりました。



図 マイクロフィルムとマイクロフィルムリーダー

ラ：その通りだ。これも先に話題に

なった雑誌だが、20世紀末あたりから電子ジャーナルといったオンラインで読めるメディアにシフトしてきている。

五：そうです。最新研究が図書館に行かずとも自分の端末で閲覧ができてすごく便利になりました。

ラ：今回の新型コロナウイルス感染症の研究は、全世界で日夜研究が進められた。その成果がリアルタイムでこの電子ジャーナルから公開され、技術革新に拍車をかけたという。

五：本当にすごいスピードでしたよね。ワクチン開発には当初2年くらいかかると聴いていたところ、何だかあっという間に開発が終わり、集団接種がはじまりましたよね。

ラ：そうだ。本当に情報伝達が世界規模で早くなった。研究成果も瞬時に人類社会に共有される時代になった。これはすごいことだ。

五：はい、本当ですよね。第四法則兄さんは満足の極致ですね。さて、選書の話に戻ります。この電子化という資料の進化により、図書館の収容量問題は別の角度の話になっていきますよね。

ラ：そうだ、その通り。毎月刊行される雑誌がオンライン上で読む電子ジャーナルに移行することで、その雑誌のバックナンバーを収容するスペースは要らなくなる。これは収容量の限界と常に戦っている現場の図書館員さん達にとって、非常に有難いことなのだ。

五：ということもあり、収容量満杯の図書館の中には電子資料を積極的に購入するケースが出てきました。筆者さんがこの夏に用事で行った図書館は開館して約20年、潤沢な資料購入費があつて羨ましい反面、書棚が埋まってしまっていたようです。

ラ：自治体側に理解があり、潤沢な予算が着いていると素晴らしい。しかし、毎年大量に資料を選書して受け入れていると、あっという間に書棚が埋まってしまう。贅沢な悩みだよな。

五：そこで電子書籍購入に舵を切ったのだそうです。もともと充実した予算体制だったこともあり、単館で前回紹介した日本の長野県の「デジとしょ信州」に匹敵するくらいの資料数を提供しているのですよ。すごいですよね。

ラ：まさに必要は発明の母だな。

五：はい！何度も言いますが、長野県一県に匹敵する資料数を市立図書館単館でそろえるなんて、すごいですよね！筆者さんのインタビューによると、この試みは収容量満杯という課題が背景にあったそうです。なるほどですよね。

ラ：うむ。これもまた別の進化と変容の一例と考えて良いだろう。今後の発展に注目だな。

### ○そこで新しい媒体を「選んで」いこう

五：さてそこで選書の話に戻りますが、内容面というよりも紙の図書・雑誌・新聞といったものから一步進化したメディアを積極的に選ぶことは、とても重要だということです。

ラ：うむ。今回話題に挙げた収容量の問題の解消には、大きな効果がある一手だな。一方、これま

での『五法則』のみんなの主張も満たしていくことにも合致するのだ。分かりやすいのはさっきも話に出てきた「電子資料」と第四法則くんだ。利用者さんにとっては、わざわざ図書館に足を運ばなくとも自分の端末から閲覧ができる。時間は大きく節約されるのだ。

五：はい、そして同時に第一から第三の兄さんたちにも喜んでもらえますよね。そもそも電子化によってより多く利用者さんに「利用」されるようになります（第一法則くん）。そして、探しやすいことと利用者さんは読みたい資料を発見しやすくなります（第二法則くん）。で、資料側としては見つてもらいやすくなるのですよ（第三法則くん）。

ラ：そうだ。その結果、これまでは図書館を見向きもしなかった人々が使うようになることで、利用者はより増大していくことになるであろう。

五：ですね。これまで図書館を使ってなかった層も自分のスマートフォンやタブレット、ノートPCを介して、思い立ったらすぐに図書館が提供する電子資料を読むことができることに気づくと、自然に使う人が増えますよね。図書館の閉館している時間だって利用できるのだから、利用者は増えるに違いありません。

ラ：うむ。筆者さんが「デジとしょ信州」を実現した館長さんに話を聞いたところ、利用統計を見

ると夜の21:00ころにアクセスしている利用者が非常に多いとのことだった。この時間は大多数の図書館が閉館している時間だろう。しかし時間的に言えば、丁度晩御飯を食べて終わり寝る前に「そうだ、本でも読むか」といった感覚で気軽に使える時間なのだ。

五：ですね。利用者が更に増える、そして新しいメディアの資料提供も成長する、というように更に図書館は成長していきますよね。

ラ：そうだ。増える新しいメディアの資料に対して、利用者が増えて行く。その増えた利用者に対応して、様々な分野の資料を選んで提供していく、そして・・・と繰り返して新しいスタイルの図書館が成長していくのだ。

〇さあて、次回は？

五：さて、そろそろお時間です。次回もまたお願いいたします。

ラ：おお、もうこんな時間か。では今回はこの辺にしておき、次回だな。今回は意外かもしれないが古典を選書することの重要さや、将来のことを考えた選書をしよう、という話をして行こうと思う。

五：私の最終回ですが、楽しみですですね。皆さん、それではまた！

（ようえ しょうえい：盛岡大学文学部）

## DMがたろく

# ESTRELA

■2023年12月号  
No.357/12月10日発行  
B5判 64ページ  
定価1,205円(税込)

### 【特集】データ活用とプライバシー保護技術

- 秘匿クロス統計技術に基づく組織横断の安全なデータ活用の実現  
寺田 雅之(株)NTTドコモ クロステック開発部 担当部長・セキュリティプリンシパル)
- 健全な合成データ活用の促進に向けた取り組み  
千田 浩司(群馬大学情報学部 准教授)
- 差分プライバシーの有用性と限界  
菅 和聖(日本銀行金融研究所情報技術研究センター 企画役)

公益財団法人 統計情報研究開発センター(Sinfonica)  
〒101-0051 東京都千代田区神田神保町3-6 能楽書林ビル 5階  
TEL: 03-3234-7471 <https://www.sinfonica.or.jp/>

株式会社 三善

PENGUIN社の多読教材  
**PENGUIN READERS**

人気の古典・フィクション・ノンフィクションタイトルを  
英語学習者向けにレベリングしたリーダー 全8レベル



セット販売 ① 60冊 SET A  
② 60冊 SET B **NEW**  
税込 各¥62,700 (本体各¥57,000)



〒167-0032 東京都杉並区天沼2-2-3  
TEL: 03-3398-9163 FAX: 03-3398-9170



## 不完全な司書

青木海青子

本は違う世界の光を届ける窓——奈良県東吉野村にひっそりとたたずむ私設図書館「ルチャ・リプロ」の司書が綴る、本と仕事にまつわるエッセイ。 1870円

**晶文社** 〒101-0051 東京都千代田区神田神保町 1-11  
Tel 03-3518-4940 <https://www.shobunsha.co.jp/>

## ソロボ、ハーツォグ/小向太郎 監訳 データセキュリティ法の迷走

情報漏洩はなぜなくなるのか？ 新たなアプローチを創造する。 3960円



## 恒吉僚子・藤村宣之 国際的に見る教育のイノベーション

日本の学校の未来を俯瞰する 日本の教育の特長とは何か。 3520円



**勁草書房** TEL 03-3814-6861 \*価格税込  
FAX 03-3814-6854  
〒112-0005 東京都文京区水道2-1-1 <https://www.keisoshobo.co.jp>

台風や水害、地震や火山活動はなぜ日本に多いのか？  
自然災害が起きる理由を「地理学」の視点から解説！

地理の基本 **防災編**

長谷川直子 鈴木 康弘 編  
定価2,420円(税込)

2023年9月発行 A5判 並製 224頁 ISBN:978-4-634-59204-9 C0025

**山川出版社** 〒101-0047 東京都千代田区内神田 1-13-13  
TEL 03-3293-8131 FAX 03-3292-6469 <https://www.yamakawa.co.jp/>

## 高野秀晴 著 石田梅岩

我不肖の身にて儒を業とす

ミネルヴァ日本評伝選(通巻250巻)

石門心学と呼ばれる独自の思想を打ち立てた、今なお人々の心を動かしつつける市井の思想家の生涯を描く。

四六判上製カバー328頁 3850円



**ミネルヴァ書房** 京都市山科区日ノ岡堤谷町 1  
TEL075-581-0296 ※価格税込

## マクロ経済動学

景気循環の起源の解明

榎井 誠 著

景気はなぜ変動するのか——古い問いに新しい答えを。新しい景気循環理論を解説する画期的な一冊。ミクロの相互作用がマクロの変動を生み出すメカニズムを解明。

A5判 3,300円

## 戦後日本社会論

「六子(むつこ)」たちの戦後

浜 日出夫 著

戦後日本社会の変容を、映画『ALWAYS 三丁目の夕日』の登場人物「六子」とその家族のありえなかったかもしれない人生を追いつつながら説明していく。

四六判 2,530円



**有斐閣** 東京都千代田区神田神保町2-17  
<https://www.yuhikaku.co.jp/> 価格は税込

## グリーンケアとグリーン カウンセリング

死別と悲嘆へのサポート実践ガイド

瀬藤乃理子+広瀬寛子(著)

●定価2640円(税込)  
ISBN 978-4-535-98509-4

死別・悲嘆に関する理論、支援の技法や進め方を具体的に紹介する。

## 日本のM&A150年史

日本企業はどう成長してきたか

川本真哉(著)

2024年1月中旬刊

日本企業のM&Aを、歴史的視点から体系的にとらえる。 ●定価3520円(税込) ISBN 978-4-535-54057-6

**日本評論社** 〒170-8474 東京都豊島区南大塚3-12-4  
☎03-3987-8621 <https://www.nippyo.co.jp>